令和４年度　兵庫県立北摂三田高等学校　　学校評価　　４：よくできた　３：できた　２：あまりできなかった　１：できなかった

学校経営の重点 番号	学校経営の重点 項目	分掌	各部・学年の重点目標	実践項目実践項目（具体的な活動・取組項目）	評価1 分掌内評価	評価２ 他の分掌に対する評価	関係者評価
1	生徒の「学の究め」への支援の充実	１年	授業を中心とした学習サイクルを確立することにより、学力の向上を図る。	家庭学習を習慣化し、小テスト・週末課題による学習内容の定着、補習を通じてさらなる学力の伸長を図る。	3.33	3.54	4.00
				一人一台端末の導入に伴い、グーグルクラスルームを活用したこまめな連絡、学習記録入力のデータ分析による日々の学習状況のフィードバックなど、ＩＣＴ利用によって従来より効率化・教育効果の向上が見込める項目については、可能な限りＩＣＴ化を進める。	3.67	3.48	
		２年	進路への意識を高め、基礎学力のさらなる向上を図る。	基礎学力の向上のため、小テスト、ウィークリー課題を実施する。	4.00	3.55	3.67
				早朝や放課後、長期休業中など、継続的な補習計画を立て、確実な学力をつけさせる。	4.00	3.45	
				課題研究を行い、情報収集力、論理的思考力、表現・発信力などを身につけさせる。	3.67	3.38	
		３年	進路目標達成のために主体的に学習に励み、各自の進路を実現させる。	早朝や放課後、長期休業中など、継続的な補習計画を立て進路実現に必要な学力をつけさせる。	3.57	3.57	3.33
				毎回の模試において、目標点設定と自己採点を実施し、有効に活用させる。	3.00	3.43	
		総務部	図書館の利用促進に努め、環境整備を行い、生徒や教員にとって利用しやすくする。	図書館の広報活動を充実し、生徒の読書活動の促進を図る。	3.75	3.26	3.67
				図書館の蔵書数を増やすとともに適切な廃棄も行い、魅力ある図書館の環境整備に努める。	3.75	3.29	
		教務部	授業のさらなる改善に取り組むことで、「学の究め」への支援の充実をめざす。	授業公開により教職員がお互いに切磋琢磨できる環境をつくる。	3.25	3.61	3.67
				自習を極力減らすなど、授業時数をできるかぎり確保する	3.25	3.61	
				ICTの活用を積極的に推進していく。	3.00	3.29	
			校務処理の環境整備をはかる。	定期考査・期末処理などが円滑に実施できるように支援する。	3.25	3.42	3.33
				コンピュータによる校務処理を円滑に実施する。	3.25	3.35	
				日々の出欠管理等、校務支援システムの活用を円滑に行う。	3.25	3.42	
		進路指導部	進路実現に向けた情報の提供。	進路指導室の資料を充実させるほか、進路講演会の実施や進路関連の情報誌の配布と活用を促進する。	3.00	3.41	3.67
				特に新しい入試制度や方式、大学入試の実施状況や本校の受験結果分析を踏まえ、生徒・教員に有益な情報を発信していく。	3.33	3.34	
				生徒が参加・体験できるキャリア研修、ボランティア活動などを企画・実施する。	3.00	3.44	
2	高校生としての確かな生活習慣と豊かな心の育成 自主活動の充実・向上	１年	高校生として自律した生活習慣・行動様式を確立する。	校則・マナーの順守、清楚・清潔を旨とする制服の着こなしや振る舞い、５分前行動、挨拶等、高校生らしい言動を心がけさせる。	3.67	3.52	4.00
				模索や進路だよりの配布、きめ細やかな面談等を通して、自らの目標や将来の展望を明確化し、自らの意思で文理選択ができるようにさせる。	3.17	3.48	
			互いが尊重し、高め合う集団作りを進める。	学校行事や遠足、学年活動、ＨＲ活動などに主体的に取り組み、責任感や団結力、豊かな心を育成する。それらを通して自ら課題を見つけ解決する能力を育成する。	3.33	3.45	4.00
		２年	集団の規則を守り、自ら考え自主的に行動する能力を身につけさせる。	学校行事などに主体的に取り組ませ、豊かな心と、課題発見・解決能力を育成する。	3.67	3.34	4.00
			中堅学年として行事・学習・部活動などにおいて、意欲的・積極的に活動させる。	朝の自習活動を支援する「朝活」や、英単語の定着を図る「ボキャリンピック」、Google Classroomを使った「学習時間の記録」など、生徒がやりがいをもって継続的な努力ができるよう、支援を行う。	3.83	3.55	4.00
		３年	最上級生としての自覚と責任を持ち、常にリーダーとして積極的に行動させる。	「リーダー会」など生徒の意見を反映させ、学校行事・学年行事などに主体的に取り組ませる。	3.00	3.39	3.33
			自立した大人として社会で適応していく能力と姿勢を育成する。	多様性を理解・尊重し、互いから学び、協働する姿勢を身につけさせる。	3.29	3.32	3.67
		生徒指導部	生徒が自律的な生活態度を身につけるための働きかけを行う。	基本的な生活習慣を確立させるための働きかけをおこなう。 ①登校時の指導　②挨拶励行、端正なみだしなみ、時間厳守	3.60	3.53	4.00
				規範意識の向上と実践のための働きかけをおこなう。 ①拡大生徒指導部会で問題行動の予兆を把握し、予防のための方針を策定 ②情報モラル講演会の実施	3.60	3.43	
			交通安全や情報モラル等、社会の一員としての責任感を育む取り組みを行う。	自転車の安全運転を励行させるように働きかけをおこなうとともに、育友会と協力して自転車点検を行う。 ①駐輪場割当、鑑札の発行、駐輪指導　②交通安全教室の実施 ③職員による自転車点検　④登下校指導の割当	3.80	3.47	3.67
			心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるように、各部・学年・教科と連携して、保健活動、教育相談の充実に取り組む。	心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるよう、各部・学年・教科と連携して、保健活動、教育相談の充実に取り組む。	3.20	3.43	4.00
				発達段階に応じて、次の内容で各学年に保健講演会を実施する。 １年生：薬物乱用防止　２年生：性教育　３年生：ストレスマネジメント	4.00	3.53	
				環境衛生検査や安全点検を行い、学習環境の向上に努める。	3.20	3.37	
3	「人間科学」「三索（総合的な学習の時間）」を中心としたさらなる特色化	総務部	図書館の環境整備を行い、「人間科学」「三索」での利活用を促進する。	県立図書館や三田市立図書館などと連携し、利用できる書籍の幅を増やす。	3.25	3.19	3.33
		教務部	教育活動の円滑かつ効率のよい実施に努める。	人間科学・三索を代表とする様々な機会で、発表する力をつける。	2.75	3.35	3.33
				本校の特色を生かし、かつ効率的な教育課程の編成に取り組む	3.00	3.29	
4	地域に愛され信頼される学校	総務部	各部、各学年の調整を図り、円滑な教育活動を目指すとともに、育友会・同窓会等とも連携して、保護者や地域に信頼される学校づくりを目指す。	各種の学校行事について、連絡・調整と内容の精選を図る。	3.50	3.45	3.67
				体育的行事や文化的行事の案内を、保護者や周辺地域に積極的に発信する。	3.50	3.52	
				オープンハイスクールや学校公開を効果的に実施する。	3.50	3.58	
			学校内外に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、保護者・地域の方々への本校活動の理解を深める支援を行う。	学校HPの更新を密に行う。	2.75	3.29	3.00
			防災教育を充実させ、危機対応能力を高めるとともに、安全で安心できる学校生活の実現を図る。	現実に即した災害発生時の防災マニュアルを作成し、それにもとづいて防災訓練や防災教育を実施する。	4.00	3.68	3.33
5	グローバル社会に通用する能力の育成	総務部	国際理解教育の推進に取組み、国際社会においても活躍できるたくましい生徒の育成を図る。	オーストラリアへの短期留学生派遣の実施に向け、受け入れ校との調整を図る。	4.00	3.52	3.67
				国際交流事業の報告集である「ＨＳメイト」を発行し、情報の共有と本校生の国際的視野育成を図る。	4.00	3.16	
		進路指導部	HGLCの推進。 人間科学類型を中心に課題研究活動に必要なリテラシーを養成する。	「人間科学類型特別授業」や「ＨＧＬＣ講演会」を実施する。	3.33	3.58	3.67
				情報機器を活用し、校外の活動への積極的な参加を推進する。	3.00	3.32	

・スクールミッションに「変化する社会の中で生き抜くことのできる人材を育成」とある。“生き抜く”には、たくましい生徒、タフな生徒を育成する意味が込められていると思う。そのために北摂三田高校ではどのように取り組んでいくか。
・生活が学校と家庭だけでは視野が限られてくる。地域との関わりを持つことが大切。ハイマートフェストもよい取組だが、三田市では、こうみん未来塾というものがある。そこで高校生が小中学生に指導している姿を見ていると、高校生が有意感を感じている。
・地域としても、高校生や大学生を求めている。平日、大阪などに勤務されている人が多い。災害が起こったとき、災害対応の担い手が女性や高齢者になる可能性がある。災害時に高校生、大学生に力になってもらえるかということが課題である。地域の防災訓練に高校生も入ってもらいたい。学校と地域をどうつなげていくか。家庭・高校・地域がどう関わっていくか。
・“生き抜く”という点について。外国では、人種も髪の色も目の色も違う人がいる環境がある。日本ではそれは難しいが、いろんな子がいることは、一人の子を伸ばすことにつながる。入試方式を見直されるなどされて、多様性を維持していくことは大切なこと。
・高校生が地域とのつながりをいかに持つか、これは国全体での問題である。兵庫県では、地域が高校を支えるという感覚だが、例えば、島根県は文科省事業に高校が２０校取り組んでいて、限界集落を学校が支えていく、学校が地域を支えていくという感覚である。こういう視点で捉えて、地域を支えないといけないという意識を高校生が持つような方向で何かできたらと思う。
・北摂三田には、三田市内からの生徒が３分の２と、地元地域からの生徒がこれだけ多い学校は、進学校では珍しい。住んでいるところ、学力、タイプが似ていて、同質性が高い。良い面もあり、悪い面もある。
・地域の活動に出て、多くの大人と関わる中で、いろんな大人がいることがわかる。地域とつながることが多様な人たちと接することになり、子どもたちにとって良いこと。地域活動に参加する意識が持てるよう、学校でも伝えてほしい。